

実装・展示報告書

政策・メディア研究科 修士課程 1年 渡邊恵太 80425845

でんわん



でんわんは、食卓で自然なかたちで遠隔地と音声コミュニケーションを可能にする茶碗型のインターネット電話である。茶碗型というかたちにすることで、食事の準備するプロセスの中に自然にコミュニケーションの開始を行うことができる。

メモリー雑巾



のきっかけを与えることができる。

雑巾や布巾と同じように、机や廊下を拭くと同時に、その場所に蓄積された音声記憶がよみがえらせるシステム。ほこりと同じように、なにもしなければ記憶がそこにたまり、ふきとればなくなる。長い時間拭き取らなければ、それだけの時間の記憶が蓄積されることになる。場所と記憶の自然に関係付ける新しい記録/再生システム。身近なモノに対応づけることで、再生

借景カケジク



部屋にさりげなく飾ってある掛軸を通じて、外界の情報を提示する。掛軸にかかれた絵の素材は、外界の時間や環境の変化連動する。生活するなかでさりげなく眺めるだけで、気になる場所の情報をゆるやかに取得できる。絵画にも窓にもなる、それが借景カケジクの特徴である。

お天気窓



窓を開けると、それとともに天気の情報聞こえてくるシステム。天気を気にするとき、テレビで天気予報を見たり、あるいは窓から外の様子をうかがう。気温を確かめるために窓をあけることもある。この具体的な天気予報を聞くこと、実際に家の外を確かめることは共存していると考える。お天気窓は、窓を開ける行為とともに、音声による天気情報がさりげなく聞こえてくるシステムである。お天気窓は、日常的な行為を通じて、私たちの日常をさりげなく支えることが可能にする。

すいすい写真たて



すいすい写真立ては、貯まったデジタル写真を手軽に「眺めたり」「じっくりみたり」を可能にするシステムである。デジタルカメラの普及により、写真をたくさん扱うことが多くなってきた。たくさんの写真はパソコンに保存しっぱなしという状態も少なくない。そのようなたくさんの写真をスライドショーなどで活用しようとする、マウスやキーボードを使ってパソコンの細かい操作が必要で煩わしい。すいすい写真立ては写真立てを押ししたり引いたりすることだけで、眺めたり、じっくり見たりを可能にするシステムである。

メモリウム



Memorium では、メモを水槽のような空間に浮かべて、そのメモに基づき WWW から情報を取得する。ユーザーはそういった自分のメモと WWW から得られた情報を眺めることで、情報に接していける。これまでコンピュータはどうしても「操作」して使うものであるということが常識であったが、生活の中で「操作する」ということは、大きな負担になりかねない。**Memorium** では操作しないで WWW などの情報にふれることのできる環境型アプリケーションである。